

1 B型肝炎を疑ったら、どのような検査をしたらいいの？

B型肝炎ウイルスは、血液や体液を介して感染します。B型肝炎ウイルスの感染を疑う際には、まずかかりつけ医などを受診して「HBs抗原」の測定を検討しましょう。国内にはB型肝炎の持続感染者は、110～140万人いると推定されています。また、B型肝炎ウイルスの大きな問題点は、一旦感染したあとにウイルスを排除できずに、ウイルスが肝臓内に残っている既往感染という状態があります。血液検査で「HBc抗体」などを測定すると、過去にB型肝炎ウイルスに感染したかどうかわかります。過去にB型肝炎に感染した既往感染の人は、「免疫抑制剤」、「抗がん剤」、「ステロイド剤」などを投与する際には、注意が必要です。

検査のはなし vol.13

専門医が解説する 病気の検査…15

「ウイルス性肝炎 (B型肝炎、C型肝炎)」



日本臨床検査専門医会
後藤 和人

2 B型肝炎ウイルスの予防法は？

これまでにB型肝炎に感染したことがない人は、かかりつけ医などにてB型肝炎ウイルスに対するワクチンを受けることができます。新生児に関しては、国より接種を義務化されているので、多くの小児はワクチンを投与されています。しかしながら、一定以上の年齢の人はワクチン未接種である場合が多いので、積極的にワクチンを接種しましょう。

4 C型肝炎の治療法は？

HCV抗体が陽性である場合は、肝臓専門医などを受診すると「HCV-RNA定量検査」などのウイルスの精密検査を受けることができます。HCV-RNA定量検査などでC型肝炎に本当に感染している場合には、ウイルスのタイプと量に応じたウイルスを除去できる治療を受けることができる可能性があります。近年、商品名ハーボニーやエブクルーサなど、高率（90%以上のウイルス排除率）にウイルスを排除する薬物が開発されていますので、前向きに精密検査を受けましょう。

3 C型肝炎を疑ったら、 どのような検査をしたらいいの？

C型肝炎ウイルスの感染を疑う際には、まずかかりつけ医などを受診して「HCV抗体」の測定を検討しましょう。世界全体では、1.7億人のHCV感染者がいると推定されています。また、国内の1～2%程度の一般献血者において、HCV抗体が陽性であるといわれています。しかしながらHCV抗体が陽性であるからといって、必ずしもC型肝炎ウイルスに感染しているわけではありません。HCV抗体が陽性である際には、かならず詳細な検査が行える肝臓専門医などを受診しましょう。

